



川崎市議会議員

本間 賢次郎 ケンジロウ

市政レポート No. 41 (令和3年3月号)

未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17

TEL044-742-8072

FAX044-211-1081

ごあいさつ



令和3年第1回定例会が先月15日に開会し、新年度予算をはじめとする各議案の審議に熱が帯びています。会期は本月19日までです。

市内の新型コロナウイルス感染症の感染状況は、1月最終週に発表された1週間当たりの新規感染者数が596人だったのに対し、2月最終週の発表では167人となり、多くの方々のご協力に感謝申し上げます。一方で、経済面への打撃は一層の深刻さを増しており、市民の生活を断固として守るため、感染拡大防止策と景気対策の充実に向けて取り組みます。

令和3年度一般会計当初予算の規模は、8,208億円！ 7年連続の過去最大規模も市税収入は2年連続の減

2月15日に開会した令和3年第1回定例会の初日に市長から施政方針演説があり、新年度予算案が示されました。

令和3年度一般会計当初予算の規模は8,208億円で、前年度比283億円(3.6%)の増となり、7年連続の過去最大規模です。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぎ、市民の生命と健康を守ることはもちろん、市内経済を支える中小企業支援の予算も目立ちます。また、義務教育課程の児童生徒1人に1台のパソコン端末を配置し活用するかわさきGIGAスクール構想や学校給食費の公会計化等による教育費の増も新年度予算のポイントです。

一方で、市税収入は昨年に続き減少し、前年度比マイナス180億円の3,454億円となっています。また、市債は前年度比79億円増の733億円に上ります。

ふるさとと納税による市税流出はさらに拡大・・・ 令和3年度は69億円の流出か！

ふるさとへの貢献や応援したいという納税者の想いを寄附によって実現することのできるふるさと納税ですが、近年は制度の趣旨に反した返礼品目的の利用者、高額納税者の節税対策のための利用が増え、大都市部では税金の地方流出に悩まされています。

川崎市では、平成27年度には2億円だった流出額が29年度には30億円を突破。令和2年度は63億円にもその額が上ると見込み、そしていよいよ来年度は69億円に到達すると見込んでいます。毎年、市の財政に関心を持って頂けるよう「財政読本」を発行し、各区役所や図書館にて無料配布していますが、その中でもふるさと納税による市税流出の問題を訴えており、その内容は年々深刻さを増しています。

市政レポート No.38（令和2年12月号）でもお伝えしましたが、市内のふるさと納税利用者数は約9万5千人で人口比ではたった6%です。その僅か6%の人々によって本来ならば川崎市民のために使われるはずの財源が失われれば、行政サービスに大きな影響を与えることとなります。令和2年度の財政読本「153万市民のおサイフ」では、流出見込みの63億円分の行政サービスを紹介しています。（右図）



その行政サービスとは・・・

保育園の運営経費ならば、園児約3,800人分に相当します。本市の認可保育所の受け入れ人数が約3万人ですから、この例は子育て世代、特に保育所への入所希望世帯にとっては切実に映ります。

また、私たちの日々の生活に欠かせないごみの収集・処理経費ならば、川崎市の全世帯数の約半分となる約36万世帯分にもなります。

さらなる市税流出が懸念される令和3年度。私たちの街を守り、豊かな生活環境を得るために、そして、子どもたちの笑顔のために、今一度、ふるさと納税の利用について考えてみませんか。